

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽 I

教科：芸術 科目：音楽 I 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 1組～7組

教科担当者：（1・2組：山岸）（3組：山岸）（4・5組：山崎）（6・7組：山岸）

使用教科書：（MOUSA1 教育芸術社）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身に着けている。

【思考力、判断力、表現力等】課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組もうとする。

科目 音楽 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・楽曲の文化的・歴史的背景や曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。 ・音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけている。	・演奏や楽曲を多角的に解釈することができる。 ・社会における音楽の役割、価値を考えて創造的に表現できる。	・音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に音楽学習に取り組もうとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
		歌	器	創						
1 学 期	・表現（ギター） 【知識及び技能】 楽器の構造を知り、ストローク奏法で曲を演奏することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 演奏曲の課題に多角的に解釈して表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的に学習に取り組むことができる。	ギターの構造、姿勢、各部の名称 ダイアグラム／タブ譜 音名とコード G, Em, D, C ストローク	○		○	【知識・技能】 必要な表現技能を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
	・表現（歌唱） 【知識及び技能】 音楽の構造や曲想について理解を深めることができる。歌唱表現をするために必要な技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	声のウォーミングアップ方法 校歌 若者のすべて Caro mio ben 小さな空 音符 一人一人が主体的に歌いながら、他者との調和を意識して歌う技能を身につける。	○			【知識・技能】 必要な表現技能を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
	・鑑賞 【知識及び技能】 音楽の構造や歴史的背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に鑑賞活動に取り組む。	音楽とは何か 西洋音楽 古代～ルネサンス バロック 日本音楽と西洋音楽の流れ			○	【知識・技能】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
2 学 期	・表現（リズム） 【知識及び技能】 創意工夫をした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	リズムの基礎 音符、音価 Desk Drumming パートの組み合わせ 音色の工夫 演奏の工夫 発表	○	○		【知識・技能】 必要な表現技能を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	10
	・表現（創作） 【知識及び技能】 音楽の構造や曲想について理解を深めることができる。表現をするために必要な技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	音楽材を用いて、反復、変化などの手法を活用して音楽を作る技能を身につける。試行錯誤しながら表現を工夫して創作する。 コード、メロディー等表現に必要な技能を身につける。	○	○	○	【知識・技能】 必要な表現技能を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	10
	・鑑賞 【知識及び技能】 音楽の構造や歴史的背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に鑑賞活動に取り組む。	音楽とは何か 西洋音楽 ロマン派 近・現代			○	【知識・技能】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
3 学 期	・表現 ソロ・アンサンブル発表 【知識及び技能】 創意工夫をした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に表現活動に取り組む。	選曲 演奏形態 アレンジ 表現活動 プログラム構成 演奏発表	○	○	○	【知識・技能】 必要な表現技能を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	9
	・鑑賞 【知識及び技能】 音楽の構造や歴史的背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に鑑賞活動に取り組む。	音楽とは何か ミュージカル作品 作曲家 映像と音楽			○	【知識・技能】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。				9
										合計
										70

主体的に鑑賞活動に取り組む。

で行動している。

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 I 科目 美術 I

教科：芸術 I 科目：美術 I 単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1・2組：大野） （3組：菅原） （4・5組：大野） （6・7組：大野）

使用教科書：（高校生美術1 日本文教出版）

教科 芸術 I の目標：

【知識及び技能】作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身に着けている。

【思考力、判断力、表現力等】課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組もうとする。

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主題に合った表現方法、技法を身につけ、創意工夫し、創造的な作品制作に生かす。	自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができ	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数	
		絵・彫	デ	映							
1 学 期	●鉛筆デッサン「球体を描く」 【知識及び技能】 ・鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につけさせる。 ・身近なものをモデルとして、対象をよく観察し、形を捉える描画力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・学んだ知識や技術を工夫して、デッサンで表現できるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・身近なものを観察することで、美術的な視点を持てるものを見る力を養う。	●指導事項 ・単純な形態の静物を鉛筆でデッサンすることで、基礎的な描画力、表現力を養う。 ●教材 ・教科書、画用紙、鉛筆（4H～6B）、練ゴム、デスケル、モチーフ	○			○					6
	●デザイン・工芸「キーホルダー制作」 【知識及び技能】 ・金属についての知識・特性を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自己の趣向や考えに基づき、表現できるように導く。 【学びに向かう力、人間性等】 ・デザイン工芸が社会にもたらす力について、制作を通じて理解させる。	●指導事項 ・自己の趣向や考えについて金属を用いてオリジナルのキーホルダーとして表現する。 ●教材 ・教科書、端末、銻金セット、電熱器等 ●一人1台端末の活用 等 ・社会で使用されている銻金作品について調べ学習に使用する。	○	○		○					18
2 学 期	●彫刻「リアルを追求する」 【知識及び技能】 ・彫刻刀による表現を学び、イメージした形を立体的に表現する様々な彫刻の技法を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・平面ではできない立体ならではのデザインを創造し、表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・彫刻刀の技法に対して意欲的に習得するよう、見本を用意するなど意識を高める。	●指導事項 ・ろうそくにデザインを施して彫刻し、オリジナルキャンドルを制作する。 ●教材 ・教科書、端末、彫刻刀セット、アクリル絵具、 ●一人1台端末の活用 等 ・モチーフの参考となるものを検索するために使用する。	○	○		○				16	
	●絵画「線の表現」 【知識及び技能】 ・いろいろな線を100種類考え、絵画表現に活かす。 【思考力、判断力、表現力等】 ・題材にするテーマから、線の形、密度、強弱など表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・画面構成をとおして、構図について理解し、意識して制作に向かうように促す。	●指導事項 ・オリジナルの線を100案考えさせる。 ●教材 ・教科書、鉛筆、練ゴム、プリント	○	○		○					12
3 学 期	●配色演習「立方体を描く～混色して色を作る～」 【知識及び技能】 ・アクリルの特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・色の明度、彩度を理解し、混色して表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・混色について考え、相応しい配色表現を模索するよう促す。	●指導事項 ・自分自身を姿かたちに捕らわれない、新しい自画像として描く。水彩の特性や技術を学び、基礎的な描画力、表現力を養う。 ●教材 ・教科書、画用紙、鉛筆、練ゴム、鏡、アクリル絵具セット ●一人1台端末の活用 等 ・表現方法を検索するために使用する。	○	○		○				4	
	●デザイン「人物の平面構成」 【知識及び技能】 ・デザインの種類、役割、色彩の与える視覚的効果を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・題材にする写真から明度段階を分割し、色彩で表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・構成をとおして、明度と彩度について理解し、意識して制作に向かうように促す。	●指導事項 ・人物写真を色彩の明度段階をもとに分割し、伝達したいイメージをもとに色彩構成する。 ●教材 ・教科書、ケント紙ボード、鉛筆、練ゴム、トレーシングペーパー、転写紙	○	○		○					14
										合計	70





高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 8組

教科担当者：（1・2組：山崎）（3・4組：山崎）（5・6組：山崎）（7・8組：山崎）

使用教科書：（MOUSA2 教育芸術社）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術活動を通して、作品の文化的・歴史的背景及び多様性について理解し、その表現に必要な知識・技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】芸術の課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創意工夫することや創造的に表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的・協働的に芸術活動に取り組むことができる。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・曲想と音楽の文化的・歴史的背景などとの関わり及びその多様性について音楽活動を通して理解を深められている。 ・創意工夫を生かした音楽表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けている。	・音楽の諸活動を通し、課題を多角的に解釈することができる。 ・社会における音楽の役割、価値を考えて評価しながらよさや美しさを創造的に捉えることができる。	・音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組もうとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
		歌	器	創						
1 学 期	・表現（ギター） 【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法や身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、課題解決のための方法を判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽を生活や社会に活かそうとし、主体的・協働的に学習に取り組むことができる。	ギターの構造、姿勢、各部の名称 ダイアグラム/タブ譜 音名とコード G, Em, D, C, Am, G/B, Bm7 ストロークの工夫 コード進行	○		○	【知識・技能】 必要な表現技術を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
	・表現（歌唱） 【知識及び技能】 音楽の構造や曲想について理解を深めることができる。歌唱表現するために必要な技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に表現活動に取り組む。	声のウォーミングアップ方法 日本の歌曲 外国語の歌曲  曲想に応じた発声・表現について 楽曲の特徴や性格をとらえた表現について	○			【知識・技能】 必要な表現技術を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
	・鑑賞 【知識】 音楽の構造や背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に鑑賞活動に取り組む。	映画を彩る音楽 映画と音楽の関係 映画音楽の作曲家たち 映像作品にみられる音楽の特徴			○	【知識】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
2 学 期	・表現（リズム） 【知識及び技能】 創意工夫をした音楽表現するために必要な技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に表現活動に取り組む。	リズムの種類 音符、音価 パートの組み合わせ アンサンブルとは 音色の工夫 演奏の工夫 発表		○	○	【知識・技能】 必要な表現技術を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	10
	・表現（創作） 【知識及び技能】 音楽の構造や曲想について理解を深めることができる。表現するために必要な技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 創意工夫のために主体的・協働的に表現活動に取り組む。	ソフトウェアの基本操作方法 旋律の作り方 拍子、リズムの変化 音階や音型などの特徴及び構成上の特徴 音楽を形づくっている要素の働き	○	○	○	【知識・技能】 必要な表現技術を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	10
	・鑑賞 【知識】 世界の音楽の構造や歴史的背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に鑑賞活動に取り組む。	世界の諸民族の音楽 身振りを伴う表現とは 旋律、音階、音律の違いなど			○	【知識】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	8
3 学 期	・表現 ソロ・アンサンブル発表 【知識及び技能】 創意工夫をした音楽表現するために必要な技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 作品の課題に対して多角的に解決し、行動する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に表現活動に取り組む。	選曲～プログラム作り～ 演奏形態とは アレンジの方法 表現活動 プログラム構成 演奏発表	○	○	○	【知識・技能】 必要な表現技術を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に表現活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。	○	○	○	9
	・鑑賞 【知識】 現代音楽及び現代の音楽の構造や歴史的背景との関わり及び多様性について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽の要素やその働きを感じながらよさや美しさを味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に鑑賞活動に取り組む。	コンテンポラリー・ミュージック 現代音楽と現代の音楽について 作曲家と作品 身近にあるコンテンポラリーミュージックを見つける			○	【知識】 必要な知識を学び、整理して定着させることができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して解決策を提案し行動、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的・協働的に活動に取り組み、より音楽のよさを目指して行動している。				9
										合計
										70



高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術Ⅱ 科目 美術Ⅱ

教科：芸術Ⅱ 科目：美術Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1・2組：大野）（3・4組：大野）（5・6組：大野）（7・8組：大野）

使用教科書：（高校生美術Ⅱ 日本文教出版）

教科 芸術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組もうとする。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主題に合った表現方法、技法を身に付け、創意工夫し、創造的な作品制作に生かす。	自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることが出来る。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
		絵・彫	デ	映						
1 学期	●金属工芸「オリジナル指輪制作」 【知識及び技能】 ・金属工芸、指輪制作のための知識・技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・学んだ知識や技術を工夫して、自ら意図したものを表現できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・身近なものを観察することで、美術的な視点を持ってものを視る力を養う。	●指導事項 ・アイデアを考え、指輪として立体的なもの見え方、観察力、造形力、表現力を養う。 ●教材 ・教科書、錫合金、ワックス、電気炉、石膏等	○	○	○	【知識及び技能】 主題に合った表現方法、技法を創意工夫し、創造的な作品制作に生かしているか。 【思考力・判断力・表現力等】 自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。	○	○	○	18
	●配色演習「立方体を描く～混色して色を作る～」 【知識及び技能】 ・アクリルの特色を学び、表現に必要な技術、知識を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・色の明度、彩度を理解し、混色して表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・混色について考え、相応しい配色表現を模索するよう促す。	●指導事項 ・自分自身を姿かたちには捕らわれない、新しい自画像として描く。水彩の特性や技術を学び、基礎的な描画力、表現力を養う。 ●教材 ・教科書、画用紙、鉛筆、練ゴム、鏡、アクリル絵具セット ●一人1台端末の活用 等 ・表現方法を検索するために使用する。	○	○	○	【知識及び技能】 主題に合った表現方法、技法を創意工夫し、創造的な作品制作に生かしているか。 【思考力・判断力・表現力等】 自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。	○	○	○	6
2 学期	●彫刻「木彫スプーン制作」 【知識及び技能】 ・彫刻刀による木彫表現を学び、イメージした形を立体的に表現する様々な彫刻の技法を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・平面ではできない立体ならではのデザインを創造し、木彫の技能を生かして表現できるようにする。 ・実際に使えるスプーンを意識したデザインを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・彫刻刀の技法に対して意欲的に習得するよう、見本を用意するなど意識を高める。	●指導事項 ・木に、自らデザインしたオリジナルのスプーンを制作する。コンセプトに沿った意識した発想を伸ばす。 ●教材 ・教科書、端末、木、彫刻刀セット、サンドペーパー、ワックス、糸鋸 ●一人1台端末の活用 等 ・モチーフの参考となるものを検索するために使用する。	○	○	○	【知識及び技能】 主題に合った表現方法、技法を創意工夫し、創造的な作品制作に生かしているか。 【思考力・判断力・表現力等】 自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。	○	○	○	14
	●デザイン「立体感のある色彩構成」 【知識及び技能】 ・アクリル絵具の特色を学び、風景の表現に必要な技術、知識を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・色の明度、彩度を理解し、立体感のある画面構成力を養う。 ・学んだ知識や技術を表現に生かす。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力する。	●指導事項 ・風景画をととして、水彩の応用的な使用方法を学び、質感や空気感などを表現する描画力、表現力を養う。 ●教材 ・教科書、端末、画用紙、鉛筆、練ゴム、鏡、アクリル絵具セット ●一人1台端末の活用 等 ・積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力する。	○	○	○	【知識及び技能】 主題に合った表現方法、技法を創意工夫し、創造的な作品制作に生かしているか。 【思考力・判断力・表現力等】 自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。	○	○	○	14
3 学期	●デザイン「ポップアップカード制作」 【知識及び技能】 ・ポップアップの仕組みや紙の特性を理解し、その技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仕組みを応用してオリジナルの制作テーマで構成、制作、表現する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・技法を積極的に吸収し、自らのアイデアを試行錯誤して実現しようと努力する。	●指導事項 ・ポップアップカードをととして立体的な感覚を養い、道具の扱い方を身に付けさせ、発想力、表現力を伸ばす。 ●教材 ・教科書、端末、ケント紙、マーメイド紙、ペン、ノリ、カッター、カッターマット ●一人1台端末の活用 等 ・モチーフの参考となるものを検索するために使用する。	○	○	○	【知識及び技能】 主題に合った表現方法、技法を創意工夫し、創造的な作品制作に生かしているか。 【思考力・判断力・表現力等】 自ら自己や社会に対して独創的な主題を生成し、表現の可能性について考え、個性を生かした創造的な表現の構想を練ることができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、自らの感性と美意識を高め、心豊かな生活に生かそうと取り組んでいる。	○	○	○	18
										合計



教科・科目		芸術・鑑賞による教養音楽				単位数		2単位	
						対象学年		3学年	
担当者		必選B							
		山崎							
教科書									
補助教材		プリント等							
目標		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等			
教科の目標		作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身につけている。		課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。		芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組んでいる。			
科目の目標		音楽を形作っている諸要素及び曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、文化的、歴史的背景について理解を深める。		音楽表現の共通性や固有性、特徴について考えを深める。 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら近くしたことと感受したことの関わりについて考えている。		音楽のよさや美しさを主体的に感じ取り、聴き取り方や感じ方を深める活動に取り組む。			
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数	
1 学期	音楽と歴史	知 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解する 思 音楽の要素を感受し、その働きを感受しながら自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさを自ら味わって聴く 学 音楽の社会背景を理解する鑑賞の学習活動に主体的に取り組む	歴史的・文化的背景を知り、音楽ががどのように形成されていったかを学ぶ	知 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している 思 音楽の要素を感受し、その働きを感受しながら自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさを自ら味わって聴くことができる 態 音楽の社会背景を理解する鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている	〇〇〇	9			
	音楽と物語	知 音楽と物語が連動して一つの芸術を作った特徴的な時代や地域を実際の絵画作品等から背景を理解する 思 音楽の諸要素を知覚し、曲や演奏に対する根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く 学 曲想や背景にある物語との関わりに関心をもち、課題に主体的に取り組む	音楽や諸芸能の特徴や、それらの誕生、発展に大きな影響を与えた物語について理解を深めるとともに、音楽と他の文化の影響を考える	知 音楽と物語が連動して一つの芸術を作った時代や地域を実際の絵画作品等から背景を理解できる 思 音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる 態 曲想や背景にある物語との関わりに関心をもち、課題に主体的に取り組んでいる	〇〇〇	8			
	音楽と絵画	知 音楽と美術のかかわりや各時代における絵画と音楽の特徴を理解する 思 楽曲を解釈したり、価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、創造的に味わって聴く 学 各時代の絵画と音楽の特徴に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組む。	音楽と絵画が連動して一つの芸術を作った特徴的な時代や地域を実際の絵画作品等から背景を理解する	知 音楽と美術のかかわりや各時代における絵画と音楽の特徴を理解している 思 楽曲を解釈したり、価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、創造的に味わって聴くことができる 態 各時代の絵画と音楽の特徴に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる	〇〇〇	6			
	プレゼンテーション				〇〇〇	1			

2 学期	音楽と映像	知 映像に合った音楽を作る	映像と結びついたさまざまな音楽作品を知り、音楽が他の芸術と結びついたときの効果を学ぶ	知 映像に合った音楽を作ることができない	〇〇〇	14
		思 映像から音楽を創造する		思 映像から音楽を創造することができない		
		学 映像課題に主体的に取り組む		態 課題に主体的に取り組もうとしている		
世界の諸民族の音楽	知 世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解する	アジア アフリカ ヨーロッパ	知 世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解できる	〇〇〇	13	
	思 音楽の諸要素を知覚し、曲や演奏に対する根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く		思 音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴くことができる			
	学 表現の共通性や固有性に関心を持ち、課題に主体的に取り組む		学 表現の共通性や固有性に関心を持ち、課題に主体的に取り組む			
	プレゼンテーション			〇〇〇	1	
3 学期	作曲家の生涯と作品	知 作曲家の作品の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解する	代表的なマエストロ	知 作曲家の作品の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している	〇〇〇	17
		思 音楽の諸要素を知覚し、曲や演奏に対する根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く		思 音楽の諸要素を知覚し、曲や演奏に対する根拠について考えて聴くことができる		
		学 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的に鑑賞活動に取り組む		態 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的に鑑賞活動に取り組もうとしている		
	プレゼンテーション			〇〇〇	1	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	芸術・保育音楽						単位数	2単位	
							対象学年	3学年	
担当者	必選C								
	山崎								
教科書									
補助教材		プリント等							
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等					
教科の目標		作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身につけている。	課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。	芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組んでいる。					
科目の目標		楽曲の構造や曲想、鍵盤楽器を演奏するための知識・用語・技術を身につける。音楽の文化的・歴史的背景、他分野との関わり、多様性について理解する。	楽曲の特徴を理解し、曲にふさわしい演奏表現を工夫している。子どもの歌の特徴を捉え、様々な音楽表現を試し、楽曲にふさわしい表現を工夫している。	技術や表現の課題を解決しようと、主体的に実技演習に取り組んでいる。音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現活動に取り組み、音楽によって社会や生活を豊かにしていく態度を培う。					
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数	
1学期	音楽理論	知 楽器を演奏するための知識・用語を理解する	音符・休符・音階について	音階(上行・下行) ハ長調 左右の指番号・運指練習、片手練習、脱力の仕方、身体の使い方 両手の練習	知 演奏、歌唱に必要な楽典を理解できている	〇〇〇	6		
		思 理論と表現の関わりを考え、理解を深める			思 理論と表現の関わりを考え、理解を深めることができる				
		学 音階や音型等の課題に主体的に取り組む			態 音階や音型等の課題に主体的に取り組むことができる				
	鍵盤楽器の演奏法 基礎①	知 正しい指使いで長音階の上・下行形を弾く	音階(上行・下行) ハ長調 左右の指番号・運指練習、片手練習、脱力の仕方、身体の使い方 両手の練習	知 正しい指使いで長音階の上・下行形を弾くことができる	〇〇〇	6			
		思 理論と実技を結びつけて、豊かに表現する		思 理論と実技を結びつけて、豊かに表現することができる					
学 技術の課題を解決しながら主体的に音楽表現を試みる		態 技術の課題を解決しながら主体的に取り組んでいる							
鍵盤楽器の演奏法 基礎②	知 音楽の諸要素やアーティキュレーションを用いて演奏する	課題曲 左右の指番号・運指練習、片手練習 脱力の仕方、身体の使い方 両手の練習	知 音楽の諸要素やアーティキュレーションを用いて演奏することができる	〇〇〇	8				
	思 アーティキュレーションを調整できる		思 アーティキュレーションを調整判断ができる						
	学 主体的に音楽表現を試みる		態 技術の課題を解決しながら主体的に取り組んでいる						
ソルフェージュ	知 楽譜を見ながらふさわしい発声、身体の使い方等の技能を身につけ、表現する	ノエルギャロ リズム	知 楽譜を正しく見て、発声・リズムを奏でることができる。	〇〇〇	4				
	思 音楽の要素について考え、知覚したことを自ら統合して読譜、演奏につなげる		思 音楽の要素について考え、知覚したことを自ら統合して読譜、演奏できる						
	学 表現を工夫することに関心を持ち、主体的に課題に取り組む		態 表現を工夫することに関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができる						
	期末考査					〇〇〇			

2 学期	音楽理論	知 コードの仕組みについて理解する	コードについて	知 コードの仕組みについて理解している	〇〇〇	8
		思 コードについて知覚したことを統合して読譜、伴奏の判断につなげる		思 コードについて知覚したことを統合して、読譜、伴奏の判断につなげることができる		
		学 音楽の構造に関心を持ち、課題に主体的に取り組みさまざまな表現を試みる		態 音楽の構造に関心を持ち、課題に主体的に取り組みさまざまな表現に挑戦している		
	鍵盤楽器の演奏法 応用①	知 正しい指使いで半音階の上・下行形を弾く	半音階（上行・下行）	知 正しい指使いで半音階の上・下行形を弾くことができる	〇〇〇	10
		思 理論と実技を結びつけて、豊かに表現する		思 理論と実技を結びつけて、豊かに表現することができる		
学 技術の課題を解決しながら主体的に音楽表現を試みる		態 技術の課題を解決しながら主体的に取り組んでいる				
鍵盤楽器の演奏法 応用②	知 曲にふさわしい演奏技術、表現を身につける	課題曲 伴奏法	知 曲にふさわしい演奏技術、表現を身につけている	〇〇〇	10	
	思 理論と表現を結び付け、創意工夫する		思 理論と表現を結び付け、創意工夫することができる			
	学 主体的に音楽表現を試みる		態 技術の課題を解決しながら主体的に取り組んでいる			
ソルフェージュ	知 楽譜を見ながらふさわしい発声、身体の使い方等の技能を身につけ、表現する	コラール リズム	知 楽譜を正しく見て、発声・リズムを奏でることができる。	〇〇〇		
	思 音楽の要素について考え、知覚したことを自ら統合して読譜、演奏につなげる		思 音楽の要素について考え、知覚したことを自ら統合して読譜、演奏できる			
	学 表現を工夫することに関心を持ち、主体的に課題に取り組む		態 表現を工夫することに関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができる			
期末考査				〇〇		
3 学期	楽典・演奏まとめ	知 楽曲について、理論と結びつけてふさわしい演奏方法や表現方法を身につける	楽典・演奏まとめ	知 楽曲について、理論と結びつけてふさわしい演奏方法や表現方法を身につけている	〇〇〇	18
		思 保育という場に応じた音楽表現を考え、創造的に表現する		思 保育という場に応じた音楽表現を考え、創造的に表現することができる		
		学 音楽の幅広い活動に取り組み主体的に音楽表現を試みる		態 音楽の幅広い活動に取り組み主体的に表現することができる		
		知		知	〇〇〇	
	思		思			
	学		態			
期末考査				〇〇		

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		芸術・アートとデザイン				単位数	2単位		
						対象学年	3学年		
担当者	必選B								
	大野								
教科書									
補助教材		プリント等							
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等					
教科の目標		作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身につけている。	課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えた創造的に表現できる。	芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組んでいる。					
科目の目標		美術の表現活動を通して、その表現に必要な知識・技能を身につけている。また過去の作品の文化的・歴史的背景及び多様性について理解することができる。	課題を多角的な考え方や見え方で捉えることができ、社会における美術の役割、価値を考えた創造的に表現活動できる。	美術のよさや美しさを主体的に感じ取り、理解を深め、生活や社会に活かそうと表現活動に取り組む。					
単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数		
1学期	文化祭ポスター制作	知 ポスターの役割を理解し、表現できる	アイデアスケッチや進め方を学び、アクリル絵具の表現を実践する。文化祭を題材に、視覚的なデザインを通して、見る側に伝える技術と表現力を高める。	知 ポスターとしての役割や機能を理解し表現できる	〇〇〇	14			
		思 構図、文字のレイアウト、配色バランス等ポスターに不可欠な要素を理解し 学 文化祭のテーマに沿ったデザインができ、校内コンテストに参加する		思 構図、文字のレイアウト、配色バランス等ポスターに不可欠な要素を理解し 態 文化祭のテーマに沿ったデザインができ、校内コンテストに参加できる					
	配色演習	知 アクリルの特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につけさせる。	配色演習を通して、色彩の基礎・基本を理解させ定着を図る。	知 アクリルの特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につけている	〇〇〇	10			
		思 色の明度、彩度を理解し、混色して表現する力を養う。 学 色を丁寧に混色でき、美術的な視点を持ってものを視る力を養う。		思 色の明度、彩度を理解し、混色して表現する力を養おうとしている 態 色を丁寧に混色でき、完成度の高い作品に仕上がっている					
2学期	パッケージデザイン	知 パッケージデザインの役割、機能を理解する	アイデアスケッチや進め方を学び、アクリル絵具の表現を実践する。パッケージデザインを題材に、視覚的なデザインを通して、見る側に伝える技術と表現力をよく調査し、表現に活かすことができる	知 パッケージデザインの役割、機能を理解できる	〇〇〇	14			
		思 コンセプトに基づいて、デザイン案を出し、表現する 学 身の回りのパッケージデザインをよく調査し、表現に活かすことができる		思 コンセプトに基づいて、デザイン案を出し、表現しようとしている 態 身の回りのパッケージデザインをよく調査し、表現に活かそうとしている					
	絵画表現（日本の伝統美術を活かして）	知 日本の伝統美術（絵画）を理解し、表現に活かすことができる	アイデアスケッチや進め方を学び、アクリル絵具の表現を実践する。日本の伝統文様を題材に、視覚的なデザインを通して、見る側に伝える技術と表現力を高める	知 日本の伝統美術（絵画作品）を理解し、表現に活かそうとしている	〇〇〇	14			
		思 構図、配色バランス、余白の使い方等こだわって表現できる 学 日本の伝統文様を活かし、表現できる		思 構図、配色バランス、余白の使い方等こだわって表現しようとしている 態 日本の伝統文様を活かし、自分なりの表現として主体的に創意工夫している					
3学期	立体表現(木工芸)	知 木工の基礎・基本を理解している	アイデアスケッチや進め方を学び、木工芸の表現を実践する。遊びを題材に、視覚的、触覚的なデザインを通して、見る側に伝える技術と表現力を高める。	知 木工の基礎・基本を理解し表現しようとしている	〇〇〇	18			
		思 自己の意図する考えを元に、こだわって制作できる 学 世界の遊具を参考にし、表現に活かすことができる		思 自分のアイディアを具現化し制作している 態 身の回りや世界の木工遊具を理解し表現しようとしている					

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	芸術・コンポジションとデッサン					単位数	2単位	
						対象学年	3学年	
担当者	必選C							
	大野							
教科書								
補助教材	プリント等							
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等		
教科の目標	作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身につけている。			課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考慮して創造的に表現できる。		芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組んでいる。		
科目の目標	美術の表現活動を通して、その表現に必要な知識・技能を身につけている。また過去の作品の文化的・歴史的背景及び多様性について理解することができる。			課題を多角的な考え方や見え方で捉えることができ、社会における美術の役割、価値を考慮して創造的に表現活動できる。		美術のよさや美しさを主体的に感じ取り、理解を深め、生活や社会に活かそうと表現活動に取り組む。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
1学期	デッサン①	知 鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につけ作品に活かすことができる 思 学んだ知識や技術を創意工夫して、デッサン力を高めることができる 学 身近なものを観察することで、美術的な視点を持つてものを視る力を養う。		・デッサンの基本を振り返り、鉛筆デッサンの応用技術を制作により高める。	知 鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につけ作品に活かそうとしている 思 学んだ知識や技術を創意工夫して、デッサン力を高めようとしている 態 主体的に身近なものを観察することで、美術的な視点を持つてものを視る力		〇〇〇	12
	デッサン②	知 鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につけ作品に活かすことができる 思 学んだ知識や技術を創意工夫して、デッサン力を高めることができる 学 モチーフを観察することで、美術的な視点を持つてものを視る力を養う。		・モチーフ観察し、かたち、陰影を正確に捉えて表現する力を伸ばす。 ・余白と構図を意識することで、構成力を養う。	知 鉛筆デッサンの基本的な技術、知識を身につけ作品に活かそうとしている 思 学んだ知識や技術を創意工夫して、デッサン力を高めようとしている 態 主体的にモチーフを観察することで、美術的な視点を持つてものを視る力		〇〇〇	12
2学期	色彩構成①	知 アクリル絵具の特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につける。 思 色の明度、彩度を理解し、立体感のある画面構成力を養う。 学 積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力する。		・色彩の基礎を復習し、色彩の特性を理解した上で、テーマに沿った構成になるよう、自ら考え実践する。 ・アクリル絵具の特性を	知 アクリル絵具の特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につけようとしている 思 色の明度、彩度を理解し、立体感のある画面構成力を養おうとしている 態 積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力している		〇〇〇	14
	色彩構成②	知 アクリル絵具の特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につける。 思 色の明度、彩度を理解し、立体感のある画面構成力を養う。 学 積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力する。		・色彩の基礎を復習し、色彩の特性を理解した上で、テーマに沿った構成になるよう、自ら考え実践する。 ・アクリル絵具の特性を	知 アクリル絵具の特色を学び、表現に必要な技術、知識を身につけようとしている 思 色の明度、彩度を理解し、立体感のある画面構成力を養おうとしている 態 積極的に、モチーフとなるものを探して、表現できるように努力している		〇〇〇	14
3学期	作品鑑賞 調べ学習、発表	知 日本や世界の美術作品や作家を調べワークシートにまとめている 思 自分なりの意見や批評をまとめている 学 自分の調べたことをプレゼン発表できる		・日本および世界の美術作品を鑑賞し、自分自身が選んだ作家、作品について調べて、ワークシートにまとめる。調べ学習をとおして、作品が制作	知 日本や世界の美術作品や作家を調べワークシートにまとめている 思 自分なりの意見や批評を文章にまとめている 態 自分の調べたことを第3者に的確に伝え発表できた		〇〇〇	18

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目	芸術・現代書と実用書						単位数	2単位	
							対象学年	3学年	
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組	
	保田	保田		保田	保田	保田	保田		
教科書									
補助教材	硬筆書写技能検定ドリル 法帖 プリント								
目標	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			学びに向かう力、人間性等		
教科の目標	作品の文化的・歴史的背景及び多様性について、芸術活動を通して理解し、その表現に必要な知識・技能を身につけている。			課題を多角的に解釈することができる。社会における芸術の役割、価値を考えて創造的に表現できる。			芸術を生活や社会に活かそうとし、主体的に芸術活動に取り組んでいる。		
科目の目標	硬筆書写技能の向上と国語の表記法、現代生活と硬筆による書写についての知識・理解を深める。 書体について理解し、毛筆の技術を学習する。			文字の歴史や成り立ちを理解し、場に応じた対応ができ、適切な表現力を養う。			知識を吸収し、自発的に学習に臨む態度を養う。 興味をもって楽しく授業に向き合うことができる。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数	
1学期	硬筆	知 楷書の学習		楷書の基本 正しい読みと仮名使い 筆順等	知 理解度		〇〇〇	4	
		思 仮名使い筆順等			思 自己判断力・表現力				
		学 真摯な学習に向き合う			態 授業に向き合う態度				
	硬筆	知 楷行書き分け		書き方の相違を理解し、 誤字なく表現する。	知 筆順の変化、連続など		〇〇〇	6	
		思 楷書と行書の相違			思 理解して、表現できる				
		学 理論を理解して向き合う			態 修得への態度				
	中間考査						〇〇		
	硬筆	知 漢字仮名交じり文・横・縦		文章を正確に美しく表現する。	知 文字の大小・行の美しさ		〇〇〇	6	
		思 行を美しく表現			思 文字の大きさを適切にできる				
		学 決まり事を理解し学習する			態 自己流になっていないか				
硬筆	知 筆ペンで実用書		筆ペンの扱い のし袋等小字の実用文字	知 きまりごとの理解		〇〇〇	8		
	思 実用の場面に沿う表現			思 適切な判断					
	学 のし袋など実用文字の修得			態 場に合う表現					
期末考査						〇〇			

2 学期	毛筆	知 毛筆の特性を生かす基本の用筆	筆の扱いを理解し、表現する	知 基本用筆の理解	〇〇〇	4
		思 毛筆の特性と理解		思 筆圧・角度等適切な判断		
		学 多様な表現		態 筆の持つ表現力を生かすことができる		
	毛筆	知 楷書・行書の用筆	古典の学習を発展させ創作	知 各々の相違を理解できたか	〇〇〇	10
		思 書体・書風の違いを理解		思 相違点を理解し、作品に活かすことができたか		
		学 臨書から創作		態 地道に確認して、作品制作できたか。達成感を得られたか		
	中間考査				〇〇	
	毛筆	知 草書・隸書・篆書の用筆	古典臨書を発展させ、作品として表現	知 各々の相違を理解できた	〇〇〇	10
		思 書体・書風の違いを理解		思 相違点を理解し、作品に活かすことができたか		
		学 臨書から創作		態 授業に積極的に向き合えたか		
毛筆	知 仮名についての理解	基本の用筆を習得し、応用作品制作	知 仮名の周辺知識の理解	〇〇〇	4	
	思 適切な判断		思 字母の確認 連綿線の美			
	学 自選の短歌で創作		態 地道に確認して、作品制作できたか。達成感を得られたか。			
期末考査				〇〇		
3 学期	毛筆	知 小筆で細楷	小筆に慣れる	知 小筆の扱いに慣れる	〇〇〇	10
		思 ていねいな運筆		思 楷書の基本を修得できているか		
		学 根気よく集中して作業する		態 細かい作業を集中して取り組む		
	毛筆	知 姓名の書	小筆に慣れる。 実用の書に生かす。	知 自由に書けるよう習得する	〇〇〇	8
		思 楷・行の毛筆で練習		思 多様な文字を駆使する		
		学 自由に自分の名前を毛筆で書く		態 興味を持って工夫できたか		
	期末考査				〇〇	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度